世界自然遺産登録 20 周年記念イベント　屋久島ビジョン 21 Vol.2

シンポジウム

屋久島の多様性がもたらす豊かな恵みを子供たちの未来へ

１００年後のこどもたちに、私たちは屋久島の何をどう残していけるのか？

日　　時：２０１３年１２月７日（土）
13 時 30 分～17 時 30 分（開場 13 時）

会　　場：東京農業大学 世田谷キャンパス １４１号教室
※裏面地図ご参照ください。

入 場 料：無料　定　員：200 名

お申し込み・お問合わせ：屋久島イベント実行委員会（株式会社ジェイプランニング内）
TEL:03-5332-3221 FAX:03-3227-0032 e-mail:t-maki@kjp.co.jp
お名前に連絡先と参加人数を添えてお申し込みください。

主催：屋久島イベント実行委員会　後援：鹿児島県・屋久島町・屋久島観光協会・東京農業大学
協力：日本エアコミューター（株）　認定ＮＰＯ法人富士山クラブ　関東屋久島会

●お楽しみ抽選会あり　●終演後懇親会あり　参加費 2,000 円　お申し込みは 12 月 5 日（木）締切り

今からちょうど１００年前、世界を股にかけて活躍していたプラントハンター Dr. ウイルソンは屋久島で偉大な発見をしました。世界自然遺産２０周年の今年、屋久杉の森を写した Dr. ウイルソンの写真に 3 人の島の青年が写っていることが判明！１００年後の今、屋久島に豊かな自然が存在している理由をその３人の青年たちの足跡に焦点を当てながら検証します。しかし昨今の地球的規模の自然破壊は屋久島にも及んでいます。先人たちが残してくれた屋久島の多様性を１００年後の未来に残していくために各界の識者が集い、保全と再生の方法について話し合います。会場ではハーバード大学所蔵の Dr. ウイルソンの写真を映写します。

シンポジウム最新情報はこちらから
しまマガジン　http://shimanogakko.blogspot.jp/

富山　和子　（とみやま　かずこ）

群馬県生まれ、早稲田大学卒業、評論家、日本福祉大学客員教授、立正大学名誉教授。水、緑の問題を始め、国土の資源や環境問題を総合的な視野からとらえ、文化と環境を守るためには、農業、林業、漁業を大切にしなければならないことを一貫して訴え、鋭い提言を行ってきた。
「日本の米」「水と緑と土」「水の文化史」「日本再発見、水の旅」「川は生きている」「道は生きている」「森は生きている」「お米は生きている」「水と緑の国、日本」「環境問題とは何か」「日本の風景を読む」「水と緑　日本の原風景」「海は生きている」など著書多数。富山和子がつくる「日本の米カレンダー」は創刊 25 周年を迎える。

古居　智子　（ふるい　ともこ）

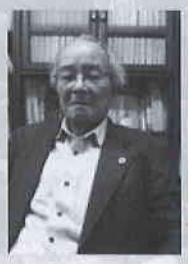
大阪生まれ。北海道大学卒。マサチューセッツ州立大学留学。ボストンでジャーナリストとして活躍後、1994 年屋久島に移住。ＮＰＯ法人屋久島エコ・フェスタ理事長。作家。環境問題に取り組みながら、島の歴史、文化、自然をテーマに執筆活動中。著書『ウィルソンの屋久島』など。

青木　直子　（あおき　なおこ）

東京生まれ。早稲田大学卒。新聞記者、国際会議メディアコーディネーター、環境分野のリサーチャーとして日・米・アジアで勤務。2000 年から自然環境保護活動を行うＮＰＯ法人「富士山クラブ」に勤務、現在認定 NPO 法人富士山クラブ理事・事務局長。

武生　雅彦　（たきゅう　まさひこ）

大分県生まれ。千葉大学大学院自然科学研究科単位取得退学。博士（理学）。財団法人埼玉県生態系保護協会、科学技術振興事業団勤務を経て現在東京農業大学地域環境科学部教授。主な著書は森林の生態学（文一出版）、世界遺産屋久島（朝倉書店）、Co-benefits of sustainable forestry (Springer)（いずれも共著）

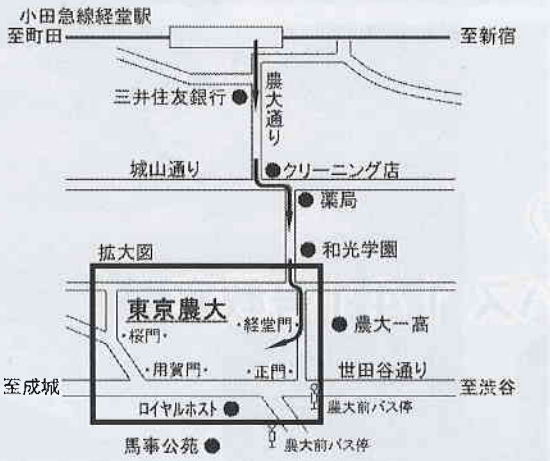


牧　良平　（まき　りょうへい）

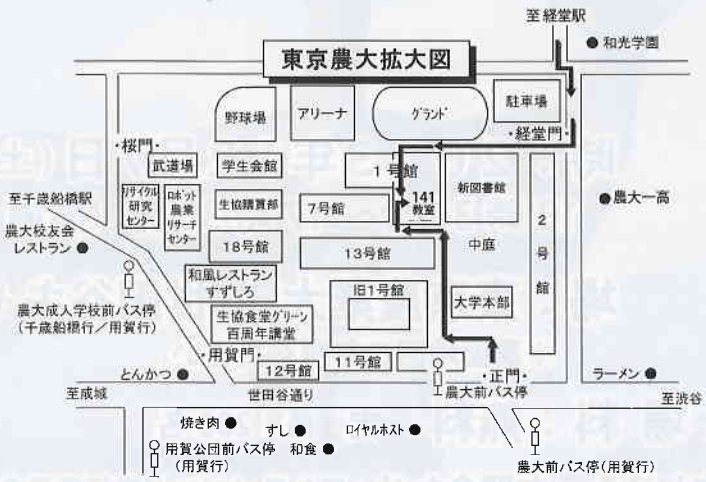
屋久島生まれ。高校まで屋久島で育つ。中央大学法学部卒。弁護士。屋久島の世界自然遺産登録に深くかかわり、島の生態系や歴史・文化などについても詳しい。関東屋久島会相談役。著書に「屋久島物語」「邪馬台国論争の盲点」など。

アクセス

◎小田急線　経堂駅から徒歩 15 分



●会場 １４１教室



◎バス＜渋谷駅（西口）～農大前＞（30 分位）

小田急バス　成城学園前駅西口行…（渋 24）　調布駅南口行…（渋 26）
東急バス　　成城学園前駅西口行…（渋 24）　祖師ヶ谷大蔵駅行…（渋 23）

当日の連絡先：090-3206-5700（屋久島イベント実行委員会）

屋久島イベント実行委員会は世界自然遺産登録 20 周年を機会に関東屋久島会が主体となり発足しました。
島と連係を取りながら真の意味での発展を考え提案していくための活動を行っています。